

曙光

第84号



令和6年6月1日発行

広島県立

総合リハビリテーションセンター

あけぼの

〒739-0036

東広島市西条町田口 295-3

TEL (082) 425-1455

近年、大相撲をあまり観る

こともなかったが、たまたまテレビを点けると春場所の尊富士と朝之山との取り組みであった。優勝がなかった。大一番で新入幕の尊富士は朝之山に敗れ、右足を負傷し車椅子に乘せられて救急車で病院に搬送された。

休場するものと思っていたが、負傷した右足首をテーピングして翌日の千秋楽の土俵に上がり見事優勝した。「気力だけで取った。正直、無理だと思ったけれど、やっ

であった。

優勝を決めた後、アナウンサーから伊勢ヶ濱親方の表情があまり変わらなと問われると「気持ちにはグツときていますよ。」語ったのには、自分もグツときた。力士は優勝しても控えめな言動がほとんどであり師匠もそうである。

序ノ口から幕内の横綱まで、場所ごとの目の前の一番に全力を尽くす姿勢は立派であるが、最近では稀勢の里、古くは貴乃花などがそうであったように、無理をして現役期間が短くならないことを願っている。

力士のしこ名はその昔「醜(しこ)名」と書いていたよ

いう。

目の前の一番に全力を尽くす姿勢は、職務内容が異なる私達にも学ぶことが多い。新しく採用された職員は、仕事を覚えて早く戦力になるうと懸命に働いている。反面、経験のある職員の中には、もつともらしい理屈で自分が行うべき業務を回避しようとする人もいる。

人事評価の公平性は永遠の課題なのかもしれないが、経験のある者がマンネリ化して業務回避行動を取っているのは珍しいことではない。少し前に知った格言に「上から三年、下から三日」という言葉がある。人を判断するには上司からみれば三

うである。「醜」の字には、自分の名を謙遜する意味があるようで、力士が踏む四股の字を当て「四股名」と書くようになるのは江戸時代からだ

年かかるが、部下として仕えれば上司の長所も短所も三日でわかるという意味である。経験の浅い職員は、上からを自分に、下からを利用者に置き換えて考えてもいいと思う。

私自身も含めて、経験を重ねても謙遜さを失わないための戒めの言葉としたい。



あけぼの事業活動紹介

通所利用者の健康への取り組み

通所利用者の小家石護さんは、健康促進の一環として、ジムトレーニングやプールの利用を行っています。職員の薦めで、4月29日にスポーツ交流センターおりづるで行われた「第26回広島県障害者水泳競技大会」に参加し、25m自由形と25m平泳ぎの二種目で金メダルを獲得しました。



初めての参加で緊張しましたが、良い結果を出せてよかったです！



♪ 音楽療法 ♪

月に3~4回ほど講師の先生（音楽療法士）に来ていただき、好きな曲や季節の曲をみんなで歌ったり、講師の先生と音楽にまつわる色々な話をしたりして、参加利用者に楽しい時間を過ごしていただいています！音楽の力によって、参加者の心や身体の不調に対して癒しやサポートを与えることができます。



講師よりひとことのコナー

「あけぼのでのセッションはこれまで通算約10年、740回を数えるほどになりました。参加者の皆さんのリクエストで知らない曲に出会えるのも私の喜びです。」

行事紹介

春の食事会 4月25日(木)

食堂内で、プロジェクターを使用して、自治会のメンバーがあけぼの周辺で撮影した、満開の桜の写真をみんなで鑑賞しました！

その後、テラスで春の風を感じながらお花見弁当を食べました！



美味しかった！



外出援助 5月16日(火)

今回は、久しぶりに「道の駅西条のん太の酒蔵」へドライブに行きました！外出の機会をしっかりと提供して、いろんなところへ出かけていきたいです。道の駅内で販売している軽食を購入し、帰ってからゆっくり食べました！



クッキング

生活介護の時間でやってみたいことを利用者の方から意見を出してもらったところ、「料理がしたい！」との声が上がりました。

そこで、カップケーキ作りにチャレンジしました！

出来上がったカップケーキは、ティータイム時に皆で美味しく頂きました！



美味しかったよ！

Good job!

利用者の動き

(令和6年2月1日～5月31日)

《新規利用者》 3名 (生活訓練1, 生活介護2) (全て入所)

【利用経路】 高次脳機能センター 3

《利用終了者》 3名 (生活訓練2, 生活介護1) (全て入所)

【進路先】 生活の場：自宅1, グループホーム2

活動の場：職場復帰1, 就労継続支援B型2

利用のご相談は
随時受け付けて
います。



あけぼの利用状況

※令和6年5月31日現在

	生活訓練	生活介護	施設入所
定員	24	30	40
在籍数	14	16	22

今回の、生活介護利用者の千田進太郎さんに「曙」、武田翔さんに「光」を書いていただきました。どちらの字も個性が出ており、味のある字になりました。

編集後記

早いもので、新年度が始まり2ヶ月が過ぎました。春が終わり夏が始まるうとしていきます。まだまだ、朝晩は冷え込み、日中は暑く、体調を崩しやすい季節ですが職員一同頑張っております。

今回、2度目の編集後記を書かせて頂いていますが、読み手に伝わる文章を作成することの難しさを改めて感じる事ができました。

また、本誌を通してあけぼのの事業・活動を知ってもらえたらと思います。
(可部)

題字紹介

今回は、生活介護利用者の千田進太郎さんに「曙」、武田翔さんに「光」を書いていただきました。どちらの字も個性が出ており、味のある字になりました。